

## I\_はじめに（基本計画概要）

児玉総合支所建替えにあたり、地域に身近なサービスを提供する拠点とし、市民交流の機能を有した誰もが利用しやすい複合型施設の実現を目指し、以下の6つの機能を柱とした基本計画コンセプトに基づき設計を行います。

### I-01\_市民に開かれた対話型のプロセス

誰もが利用しやすく、ユーザーである市民ニーズを踏まえた計画とするために、「市民アンケート」や「公共施設再配置・複合施設機能検討懇談会」を行い地域に身近なサービス提供拠点となる市民に開かれた複合型施設とする。これらの市民ニーズを踏まえ、次項「6つの機能」と「コンセプト」を設定した。

### I-02\_6つの機能

- 【行政窓口機能】 市民サービスの提供拠点となる児玉総合支所
- 【生涯学習機能】 他機能との連携を強化しつつ、多様化する市民ニーズにも対応可能な児玉公民館
- 【展示・情報発信機能】 堀保己一の業績による貴重な遺品等の展示、保管場所を整備した堀保己一記念館  
市及び児玉地域の歴史文化の情報発信、観光 PR 拠点としての機能
- 【健康づくり機能】 児玉地域の方々の健康づくりの場や健診等の実施場所に対応する機能
- 【子育て支援機能】 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、また情操を豊かにする児童館
- 【防災機能】 災害時の一時避難場所として安全安心な建物と機能を有する地域防災の拠点としての機能



### I-03\_基本計画コンセプト

- 多様化する地域ニーズに応えた【こだまの新複合型施設】
  - ・機能の複合化による、効率と利便性の向上
  - ・多様化するニーズに柔軟に対応する機能性の確保
- 地域に寄り添う安全安心な【こだまの拠り所】
  - ・多様なサービス、賑わい、多世代交流の拠点
  - ・堀保己一の業績と遺品等が日常に寄り添うと共に、歴史文化の情報発信や観光 PR の拠点
  - ・災害時の避難場所として安全安心な地域防災の拠点
- 近隣、地球環境に配慮した【こだまの公園】
  - ・サービス、賑わい、交流、憩いを求めて市民が自然に集まるような身近な公園として
  - ・大人の目が行き届く安全安心な子どもの遊び場として
  - ・地球環境への配慮と共に、近隣環境とも共存するモデルケースとして
- 歴史や経験、記憶を蓄積する【こだまの優しい家】
  - ・機能の複合と共に経験や記憶も複合（共有）できる設えを備えた安らぎの場として
  - ・児玉の原風景となり、人々の心に残るような場として

## II\_基本設計方針

### II-01\_複合の仕方

#### ○「集まること」のメリットを活かした施設構成

- ・それぞれの機能毎にまとまりのあるゾーニングとし、効率と利便性を両立する。
- ・エントランスホールやロビー、中庭、広場等の共有空間を中心とした平面計画とし、多世代交流を促す空間構成とする。
- ・それぞれの機能を回遊動線でつなぐ動線計画とし、多様な関係性を創り出す。
- ・利用型機能を1階にまとめる階構成とし、利便性と賑わいを創出する。
- ・共有や多目的利用を前提とした設えとする。

#### ○「集まること」のデメリットの把握

- ・複合することで生まれるデメリット（プライバシー、騒音、共有ルール等々）も十分に検討、把握する。
- ・利用型機能と業務系機能を極力分節する。
- ・機能毎の利用時間帯や活動性の違いを把握し、計画に反映する。
- ・地域の交通事情や複合化による利用者増を考慮し、現状以上の駐車台数を確保する。

#### ○市民ニーズに応えた児玉地域に相応しい新たな複合型施設

- ・利用者を中心とした「間取り・使い方シミュレーションワークショップ」「高校生アンケート」を行い、より具体的なニーズを把握し、設計に反映する。
- ・市内類似施設の調査及びヒアリングを行い現状の問題点や親しまれている点などを把握し、設計に反映する。

### II-02\_場の作り方

#### ○多様なサービス、賑わい、交流、憩いの拠点としての場

- ・まとまりのある各機能専有スペース、各機能を結ぶ回遊動線、各機能共有スペース（内外部）を効果的に配置し、単独利用や共通（交流）利用など多様なニーズに対応可能な施設構成とする。
- ・回遊動線は単なる動線として扱うのではなく、溜まり（広めの廊下幅、ベンチ、ソファの設置など）や簡単な展示機能（展示ボードや掲示レールなど）を持たせ、賑わいや交流、憩い機能を持たせる。
- ・各機能で共有する広場は、多様なイベントに対応可能な舗装強度、仕上げとする。
- ・庇やベンチ等を設置し、地域の憩いの場として計画する。

#### ○人々が自然に集まるような身近な公園としての場

- ・周辺地域との接点となる敷地南側に、施設内回遊動線と連続させるようにポケットパークを計画し「地域の居場所」として位置付けた設えを施す。
- ・法令遵守した緑化計画とすると共に、居心地の良い内外部空間を創出する。

#### ○児玉地域の家としての場

- ・利用者個々の家の延長として感じて頂けるよう、親しみのある優しいヒューマンスケールな建築を計画する。
- ・既存のタイムカプセルを継承し、保管スペースを確保すると共に子どもたちにとっての原風景となるよう、地域の子どもたちの居場所を計画する。
- ・簾や格子戸、障子、木の仕上げ、左官仕上げなど、「自然」「和」のマテリアルを積極的に採用し、落ち着いた親しみのある住宅のようなデザインとする。

### II-03\_環境との向き合い方

#### ○地球環境との向き合い方

- ・自然エネルギーを最大限享受できるようパッシブデザインを徹底する。
- ・耐震性、省エネ性、維持管理の容易性、構造躯体の耐久性、フレキシブル性など、各種性能確保を目指すことで建物の長寿命化を図る。
- ・太陽光や太陽熱、地熱、風、バイオマスなどの再生可能エネルギーを積極的に利用することを検討する。

#### ○地域環境との向き合い方

- ・近隣民家への日影、騒音の影響を考慮した配置計画とする。
- ・地域の街並みのスケール感に溶け込むようなボリューム計画とし、圧迫感を排除する。
- ・景観の連続性を確保したマテリアルを採用する。
- ・「地域の居場所」を目指したポケットパークを拠点に、地域のランドマークや拠り所となるよう配慮する。